1950年8月24日 第3種郵便物認可 2024年6月10日発行（毎月1回10日発行）第80巻6号 通巻第939号
CODEN:SENGA 5 ISSN 0037-9875
https://www.fiber.or.jp/

Sen'i Gakkaishi
(Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan)

繊維学会誌

特集〈2023年夏季セミナー、秋季研究発表会から〉

2024 Vol.80 6
一般社団法人　繊維学会

本学が開学以来培ってきた
「繊維」の学術・技術を

産業の場に置いて
繊維技術を歴史的に継承してきた地
「京都」から世界へ――

京都工芸繊維大学
繊維科学センター
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町13号館4階

お問い合せ
TEL 075-724-7701
FAX 075-724-7705 Mail fiber@kit.ac.jp

公式サイト
https://www.cfts.kit.ac.jp/

一般社団法人
繊維学会
THE SOCIETY OF FIBER SCIENCE AND TECHNOLOGY, JAPAN

2024 年5月 18日

［小島基金］リカレント教育支援制度について

小島盛男様からのご寄付を貴重な財源として、“令和 10 年プロジェクト”を推進しています。

プロジェクトの一環として、リカレント教育支援制度を設けており、博士号取得を目的として大学院に在学中の、企業もしくは公設試験研究機関に所属する研究者の方を対象に、下記の通り奨学金を給付します。

記

支援対象：　下記のすべてを満たす方のうち、若干名
① 繊維学会の正会員であること
② 企業もしくは公設試験研究機関に所属していること
③ 博士号取得を目的として大学院に在学中であること

支援方法：　奨学金として40 万円を支給し（１人１回限り）、JFST への投稿を３年間無料とします。

選考方法：　繊維学会運営委員会にて、研究内容が繊維学会の対象分野に合致するか否か等を審議し、採否を決定します。

応募方法：　2024 年 7 月 12 日までに、①対象者氏名、②所属企業もしくは機関名、③博士号取得予定の大学院名、④指導教員、⑤研究内容（Ａ４・１枚程度）を、応募先までメールにて連絡ください。

被支援者の義務：　被支援者は、以下の義務を履行する必要があります。
①繊維学会主催行事への参加(種類や回数は問わない)
②研究成果の JFST への投稿（１報以上）

その他：　採用が決定し奨学金をお支払いする前に、在学証明書を提出いただきます。また、特別の事情がない限り、採用者の氏名を学会誌に掲載いたします。奨学金は原則、個人名義の銀行口座への振込とします。

応募／連絡先：　繊維学会事務局（mail: office[at]fiber.or.jp） [at]を＠に変えてお送りください。

Laurier in Workplace

職場のロリエ®

Laurier ロリエ

それは、働くひとたちの声からはじまった
生理用ナプキンの備品化プロジェクト

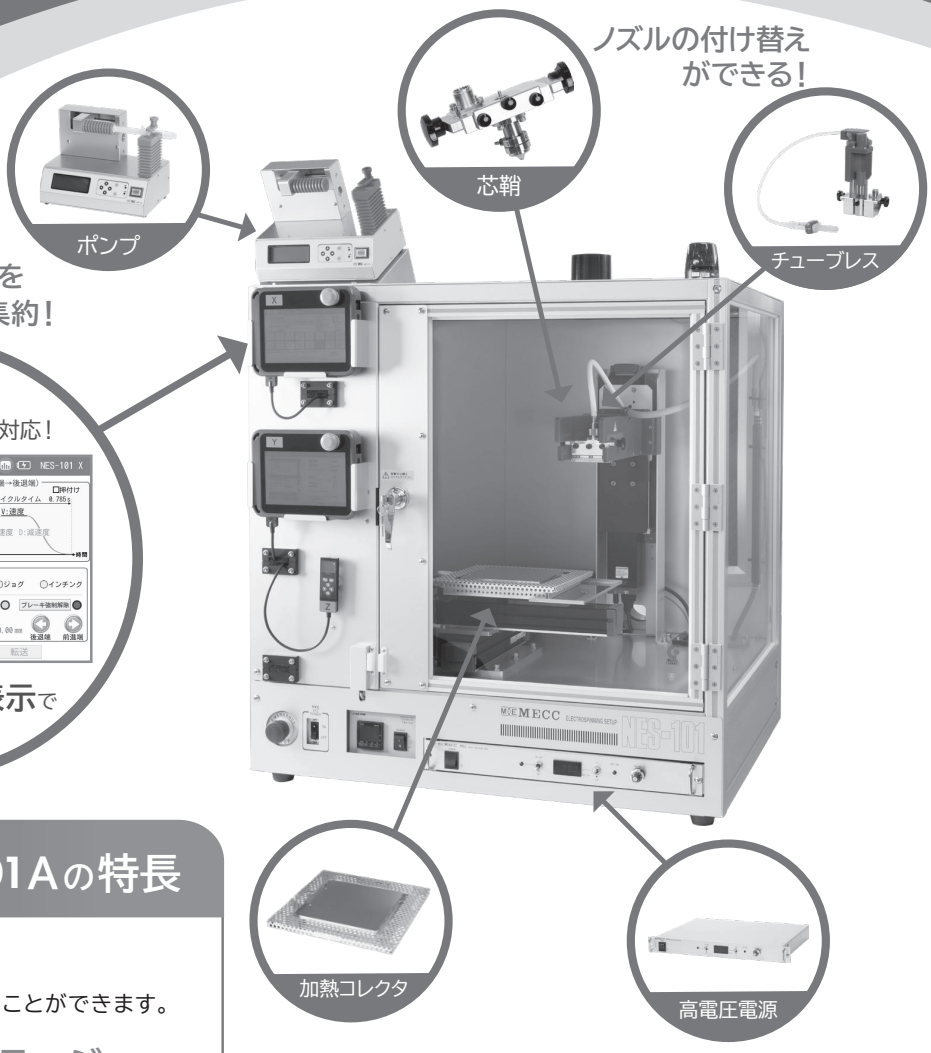
「仕事中、急に生理になって困った」「これから会議なのに」「買いに行く暇なんてない」
そんな声をたくさん聴いてきました。

トイレットペーパーと同じように生理用品も職場に備品としてあれば。
心配ごとが1つ減って、安心して仕事ができるかもしれない。
働くひとと企業、両方にうれしいことが起こるような
前向きなサイクルを作っていきたいと思っています。

詳細・お問い合わせは「職場のロリエ」ホームページをご覧ください。▶
https://www.kao.co.jp/laurier/project/shokuba/

kao

装備を選べる!電界紡糸装置 NES-101A



ナノファイバー電界紡糸装置 NES-101Aの特長

1 加熱コレクタ
溶媒の揮発を促進させることができます。

2 前後左右XYステージ
大型で均一なナノファイバーを作製します。

3 作業者の安全に配慮
高圧電源OFF時の電圧の下りが0.5秒!
高圧放電に対する安全機能も搭載しています。

4 2面の強化ガラス採用
紡糸の状態をしっかり観察できます。

筐体のみの購入も可能です。
研究内容に合わせて
装置を準備できます!

●メックの研究員:つむぎ
日々の研究レポートをホームページの
「最新ニュース」に公開中です!

お問合せ
MECC 株式会社メック Tel.0942-41-2200 〒838-0137 福岡県小郡市福童196-1

問合せフォーム

中村科学器械工業の撹拌製品は、磁石の力で

密閉×撹拌

フラスコ側の撹拌棒を磁石によって非接触で回転させることにより、密閉撹拌を可能としました。

▼ 実験の目的・環境に合わせて選べる 2 種類のラインナップをご用意！ ▼

- ☑ 手軽に撹拌実験機器を増設したい！
- ☑ 省スペースで撹拌実験を行いたい！

SEALING MIXER UZU

コンパクトなボディにモーターを内臓。
フラスコに差し込むだけで軸合わせの必要なし。

Point1	PTFE ベースの製品構成	高耐薬品性
Point2	フラスコに差し込むだけ	軸合せ不要
Point3	ボディにモーター内蔵	省スペース

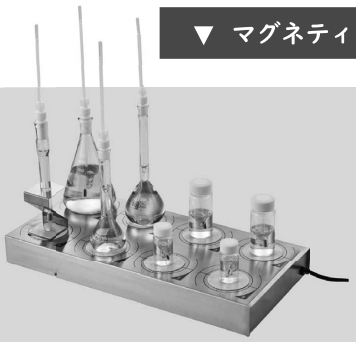
- ☑ 高負荷環境での実験を行いたい！
- ☑ 既設のモーター類をそのまま使いたい！

MIGHTY MAG SHIEL

お手持ちの撹拌機に接続するだけ。
強力な磁石により密閉環境下の高粘度撹拌を実現。

Point1	ネオジム磁石を使用	高トルク
Point2	減圧に対応した内部機構	高真空
Point3	撹拌機への簡単接続	高汎用性

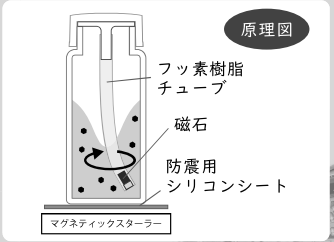
▼ マグネティックスターラーでの小スケール撹拌に役立つ製品もご提案しています！



fricco

振り子式撹拌子 フリッコ

樹脂チューブ先端についた撹拌子の回転により、
従来の撹拌子ではすり潰してしまうような対象も
ダメージを抑えつつしっかり撹拌することができます。



詳細な製品説明・動画等は
弊社ホームページにて公開しております。
https://www.nmkkk.co.jp/index.html

CO-CREATE 想像を共創する

中村科学器械工業株式会社
NAKAMURA SCIENTIFIC INSTRUMENT CO., LTD.

中小企業の皆さまのお悩みを 技術で解決！

技術課題に直面したら お気軽に都産技研の技術相談へ!

お客さまの抱えている技術的な課題の解決に、研究員がお客さまと一緒に取り組みます。
製品・技術開発、製品評価、人材育成など、
都産技研が持つ豊富なノウハウや最新の機器・設備をご活用ください。

都産技研の主な支援メニュー

技術相談 無料

企画、設計、試作から実用化、品質管理、事故解析まで、広く技術的なご相談をお受けしています。

そのほか、国際規格や海外の製品規格についての専門相談も承ります。

依頼試験 有料

お客さまの多様なニーズにお応えして、試験、測定、分析を行います。試験結果に基づき、品質証明や事故原因などについてアドバイスを行います。

機器利用 有料

お客さま自身で操作いただける、さまざまな機器・設備を設置しています。製品や材料などの試作、測定、分析にお役立てください。

オーダーメード型技術支援 有料

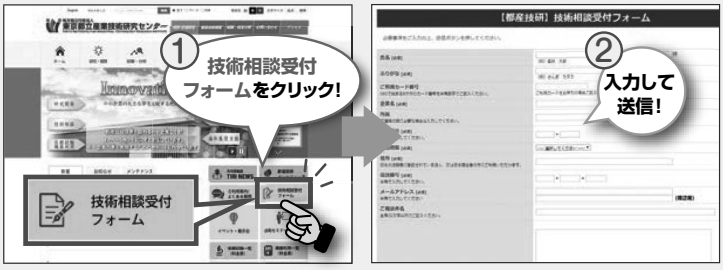
製品化のためのコンセプト立案、デザイン、設計、各種加工、試作、開発過程での性能評価など、開発要素の強いニーズにお応えします。

セミナー・講習会 有料（一部無料）

基礎知識を身に付けたい方、技術力の向上を図りたい方、業界の動向を把握したい方に向け、技術セミナー・講習会を開催しています。

まずは、ご相談をお寄せください。

ウェブサイトからのお問い合わせ
https://www.iri-tokyo.jp/

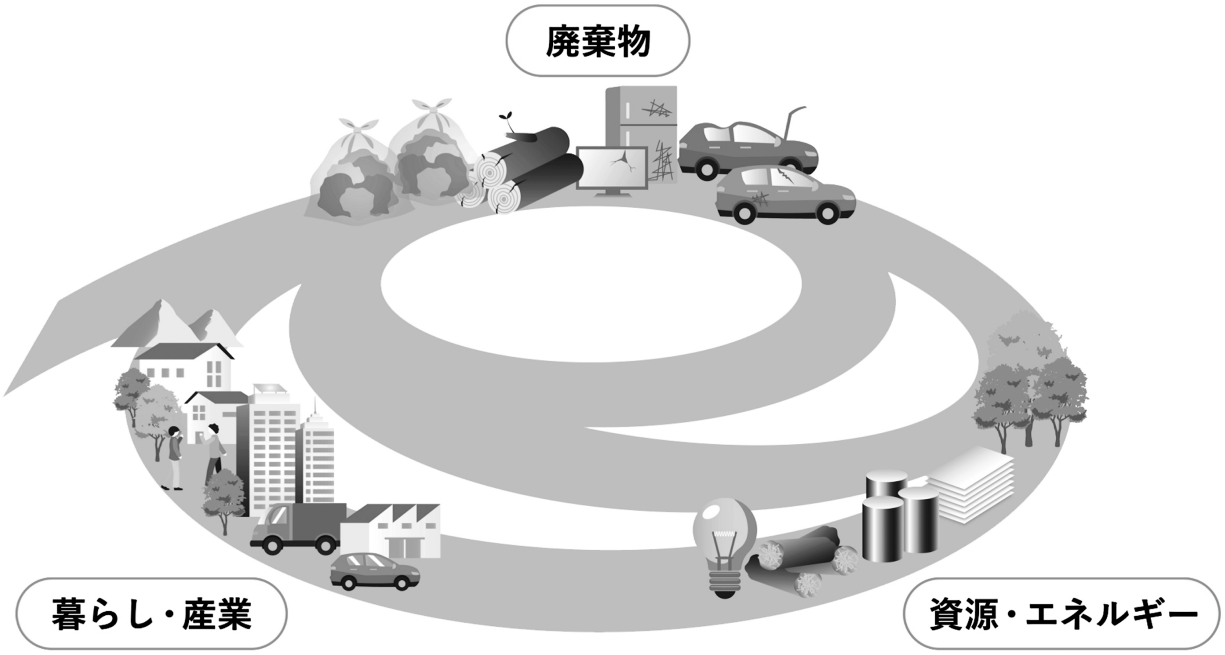


電話でのお問い合わせ 03-5530-2140 総合支援窓口（本部）（平日9:00～17:00）

地方独立行政法人
東京都立産業技術研究センター
TOKYO METROPOLITAN INDUSTRIAL TECHNOLOGY RESEARCH INSTITUTE

TRE GROUP

東京証券取引所プライム市場（9247）



環境を守ることは、未来を守ること。

わたしたちは、廃棄物を高いレベルで分別・選別し、
可能な限りの再資源化に取り組むことで、
サステナブルな社会の実現に貢献しています。

㈱タケエイは、2021年10月1日にリバーホールディングス㈱と経営統合し、TREホールディングス㈱を設立。
地球の環境保全に貢献するため、よりスピーディーかつ最適なソリューションを提供いたします。

株式会社タケエイ

■本 社　〒105-0011 東京都港区芝公園 2 丁目 4 番 1 号
芝パークビル A-10階
TEL　03-6361-6830　FAX　03-6361-6835
URL　https://www.takeei.co.jp

環境大臣認定
エコ・ファースト企業

㈱タケエイのWebサイトへ

☆廃棄物処理・リサイクル
- ■㈱タケエイ
- ■㈱池田商店
- ■㈱ギプロ
- ■㈱グリーンアローズ関東
- ■㈱グリーンアローズ東北
- ■㈱タケエイメタル
- ■東北交易㈱
- ■イコールゼロ㈱
- ■㈱タッグ
- ■㈱北陸環境サービス
- ■㈱信州タケエイ
- ■㈱門前クリーンパーク
- ■㈱タケエイエナジー＆パーク

☆再生可能エネルギー
- ■市原グリーン電力㈱
- ■循環資源㈱
- ■㈱津軽バイオマスエナジー
- ■㈱花巻バイオマスエナジー
- ■花巻バイオチップ㈱
- ■㈱大仙バイオマスエナジー
- ■㈱タケエイグリーンリサイクル
- ■㈱田村バイオマスエナジー
- ■㈱タケエイ林業
- ■㈱タケエイでんき
- ■㈱津軽エネベジ
- ■㈱泉山林業

☆環境エンジニアリング
- ■富士車輌㈱

☆環境コンサルティング
- ■環境保全㈱
- ■㈱アースアプレイザル

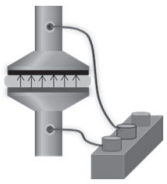
新規開発！レオ・インピーダンス/誘電センサー

スラリーやクリームの測定に適した新構造

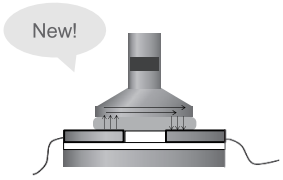
エマルション、サスペンションなどの構造粘性体は多様な流動曲線を示し複雑な解釈が求められます．
この解釈を補完するために、流動場で温度を制御しながら誘電率やインピーダンスを同時に測定できるセンサーを開発しました．

レオメーターで粘度や弾性率を測定しながら 誘電率やインピーダンス などの電気化学の物性値を同時測定できる画期的なセンサーです。

- 定常流粘度（フロー測定）や動的粘弾性と電気化学特性を同時評価
- 広い交流周波数帯(4 Hz ~8 MHz)で測定可能
- ペルチェ温調プレートに簡単に装着
- TRIOSソフトでレオ・インピーダンス/レオ・誘電測定を統合制御

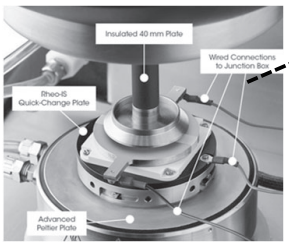


オーブン温調タイプ
（-150～350 ℃）



ペルチェプレート温調タイプ
（スラリーなど流体サンプル向き）

レオ・インピーダンスシステム



Discovery Hybrid Rheometer

構造が変われば電気の流れも変わる！測定事例

導電性インク焼結過程の*in-situ*測定

パワーデバイス等への応用が期待される導電性インクの1つである銅インクの焼結過程をレオ・インピーダンスシステムを用いて評価しました（図１）．弾性率およびコンダクタンス（電気抵抗の逆数），そして熱重量・示差走査熱量同時測定（TG-DSC，Discovery SDT650)の測定結果TG−DTAカーブも同じグラフにプロットしています．150 °C 付近で弾性率の上昇，コンダクタンスの上昇，重量の減少，および吸熱現象が同時に発生していることが分かります． その温度では、銅錯体が分解し、焼結して金属になることが先行研究[1)]から明らかになっています．

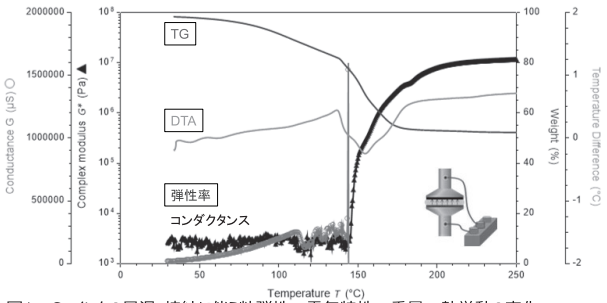


図1．Cuインクの昇温・焼結に伴う粘弾性，電気特性，重量，熱挙動の変化

材料提供；関西大学 1) ACS Appl. Mater. Interfaces 2021, 13, 20906−20915

リチウムイオン電池正極スラリーのレオ・インピーダンス測定

カーボンペーストとそれに正極活物質を添加した正極スラリーのレオ・インピーダンスを測定しました．カーボンペーストでは，せん断流動によりインピーダンス測定結果が変化していることが分かります（図2）．ナノサイズのカーボンブラック微粒子が形成しているネットワーク状の凝集構造がせん断により変化して局所的な電気の流れが変化していることが示唆されます．一方で，カーボンペーストに正極活物質を添加した正極スラリーでは，せん断流動によりナイキストプロットはほとんど変化しませんでした（図3）．数十μmの大きな活物質粒子が混合されることにより，ある程度カーボンのネットワークが細かく切断されてより分散されかつ均一な構造が形成されていることが推測されます．

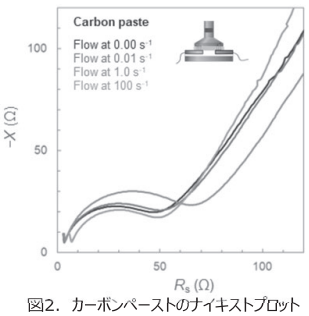


図2．カーボンペーストのナイキストプロット

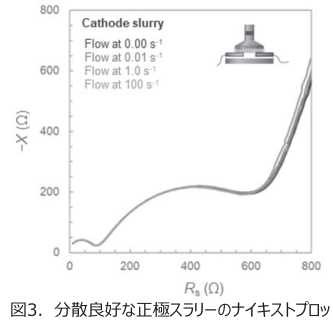


図3．分散良好な正極スラリーのナイキストプロット

東京・大阪にラボがございます。
サンプル測定も承っておりますので、お気軽にご相談ください。
☚こちらのQRコードからお問い合わせください。

お問い合わせ

TA ウェブサイト
アプリケーションご紹介

YouTubeチャンネル
過去のセミナー動画

©2024 Waters Corporation
ティー・エイ・インスツルメント・ジャパン株式会社　E-mail : infotajapan@waters.com

繊 維 学 会 誌

2024年6月　第80巻　第6号　通巻　第939号

目　次

時　評　技術士のススメ　西中　久雄　P-175

解　説　PETボトル由来マテリアルリサイクル繊維の判別試験について　舟橋みゆき・安藤　健　P-176

特　集　〈2023年夏季セミナー、秋季研究発表会から〉

天然染料の色彩を追究する　古濱　裕樹　P-180

炭素繊維の極限追求で描く未来　小野　公徳　P-186

残渣から作る炭素繊維 ～炭素循環社会の実現を目指して～　中林　康治　P-191

炭素繊維とその複合材のLCA　髙橋　淳　P-194

連　載　〈繊維 街歩き(3)〉

トヨタ産業技術記念館訪問記　小寺　芳伸　P-198

Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 80, No. 6 (June 2024)

Contents

Foreword An Encouragement of Professional Engineers — Hisao NISHINAKA — P-175

Review

Identification Testing of Mechanical Recycled Fibers Derived from PET Bottles — Miyuki FUNAHASHI and Takeshi ANDO — P-176

Special Issue on Highlights from the summer seminar and autumn meeting of 2023

Investigation of Color in Natural Dyes — Yuki KOHAMA — P-180

Future Prediction of Carbon Fibers by Thorough Investigation — Kiminori ONO — P-186

Carbon Fiber Created from Residues ～Toward the Realization of a Carbon-Circulating Society～ — Koji NAKABAYASHI — P-191

LCA of Carbon Fibres and Their Composites — Jun TAKAHASHI — P-194

Series on Culture and Technology of Textile (3)

Report on Visit to the Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology — Yoshinobu KOTERA — P-198

Journal of Fiber Science and Technology (JFST)

Vol. 80, No. 6 (June 2024)

Transaction / 一般論文

❖ Highly Conductive Self-Doped Poly(3,4-ethylenedioxythiophene) Fibers Fabricated by One-Step Wet-Spinning

Sadayoshi Hayashi, Ayana Tomioka, Yuxin Jing, Hirokazu Yano, and Hidenori Okuzaki 131

❖ 羊毛繊維に対するパラフェニレンジアミンの自己酸化重合挙動と染着機構

伊豆田　友美・上甲　恭平 137

Autooxidative Polymerization Behavior of Paraphenylenediamine and Dyeing Mechanism on Wool Fiber

Yumi Izuta and Kyohei Joko

❖ A Consciousness Survey on SDGs Initiatives for Young Women: From Perspective of Clothing Environment and Gender Equality

Manami Fukumura 146

繊維学会論文誌 “Journal of Fiber Science and Technology（JFST）”

毎月の目次と抄録を繊維学会誌に掲載して参ります。本文は J-Stage でご覧になれます。繊維学会のホームページ「学会誌・出版」から、また直接下記のアドレスにアクセスしてください。
英　語：　https : //www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst
日本語：　https : //www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst/-char/ja/
JFST はどなたでも閲覧は自由で認証の必要はありません。但し、著作権は繊維学会に帰属されます。

Journal of Fiber Science and Technology 編集委員
Journal of Fiber Science and Technology, Editorial Board

編集委員長 Editor in Chief	鬘谷　要（和洋女子大学大学院） Kaname Katsuraya	編集副委員長 Vice-Editor	武野明義（岐阜大学） Akiyoshi Takeno
編集委員 Associate Editors	青木隆史（京都工芸繊維大学大学院） Takashi Aoki	上高原　浩（京都大学大学院） Hiroshi Kamitakahara	金　炅屋（信州大学） KyoungOk Kim
	久保野敦史（静岡大学） Atsushi Kubono	宮　瑾（山形大学） Gong Jin	齋藤継之（東京大学） Tsuguyuki Saito
	澤渡千枝（武庫川女子大学） Chie Sawatari	朱　春紅（信州大学） Chunhong Zhu	趙　顯或（釜山大学校） Hyun Hok Cho
	登阪雅聡（京都大学） Masatoshi Tosaka	花田美和子（神戸松蔭女子学院大学） Miwako Hanada	久田研次（福井大学大学院） Kenji Hisada
	山本勝宏（名古屋工業大学） Katsuhiro Yamamoto		

Highly Conductive Self-Doped Poly(3,4-ethylenedioxythiophene) Fibers Fabricated by One-Step Wet-Spinning

Sadayoshi Hayashi[*1, *2], *Ayana Tomioka*[*1], *Yuxin Jing*[*1], *Hirokazu Yano*[*2], *and Hidenori Okuzaki*[*1]

[*1] *Graduate Faculty of Interdisciplinary Research, University of Yamanashi, 4-4-37, Takeda 400-8510, Japan*

[*2] *Organic Materials Research Lab., Tosoh Corporation, 4560 Kaisei-cho, Shunan 746-8501, Japan*

The fully soluble self-doped poly(3,4-ethylenedioxythiophene) (S-PEDOT) fibers were fabricated for the first time by one-step wet-spinning at different concentrations (*C*) and characterized by means of SEM, four-probe method, XRD, and tensile test. It was found that the electrical conductivity of the S-PEDOT fiber wet-spun at *C* = 1.5 wt% attained as high as 1450 S/cm without the use of secondary dopant and post-treatment, which was higher than that of the cast film (946 S/cm). Furthermore, the S-PEDOT fiber exhibited superior mechanical properties compared to the cast film, where Young's modulus, tensile strength of the S-PEDOT fiber were 4.0 GPa and 297 MPa, respectively. The results allowed us to conclude that the excellent electrical and mechanical properties of the S-PEDOT fiber were associated with the orientation of S-PEDOT chains along the fiber axis. **J. Fiber Sci. Technol., 80(6), 131-136 (2024) doi 10.2115/fiberst.2024-0014** **©2024 The Society of Fiber Science and Technology, Japan**

Autooxidative Polymerization Behavior of Paraphenylenediamine and Dyeing Mechanism on Wool Fiber

Yumi Izuta and Kyohei Joko

Tohoku Seikatsu Bunka University, 1-18-2, Nijinooka, Izumi-ku, Senndai city, Miyagi, Japan

We investigated the dyeing behavior for wool fibers with *p*-phenylenediamine (pPDA) alone on current hair dye formation system. We compared the dyeing behavior for wool fiber dyed self-oxidizing pPDA solution by air with that for fiber dyed with model pPDA dyeing system of oxidation hair dye. The K/S-λ curves of wool fiber dyed with filtrate of air-oxidized pPDA solution differed from those of wool fiber dyed with model pPDA dyeing system. In model pPDA dyeing system (pH10) of oxidation hair dye, it was thought that not all of the compounds generated in the air-oxidized pPDA solution were dyed, but two types of oxidative dyes with characteristic absorption wavelengths of 480 nm and 580 nm were dyed. In addition, the oxidation dyes with absorption at 480 nm and 580 nm were dyed on the wool fabrics were thought to be bicyclic 2-(4'-Amino aniline)-3-hydroxy-1,4-benzoquinone diamine and tricyclic Bandrowski's base (BB), respectively. Based on these results, we proposed a new dyeing mechanism model, 2-(4'-Amino aniline)-1,4-diamino benzene formed at the solution/fiber surface diffuses into the fiber and is oxidized, lead to 2-(4'-aminoaniline)-1,4-benzoquinone diamine and BB. **J. Fiber Sci. Technol., 80(6), 137-145 (2024) doi 10.2115/fiberst.2024-0015** **©2024 The Society of Fiber Science and Technology, Japan**

A Consciousness Survey on SDGs Initiatives for Young Women: From Perspective of Clothing Environment and Gender Equality

Manami Fukumura

Department of Design for Contemporary Life, Gifu City Women's College, 7-1 Hitoichiba Kitamachi, Gifu 501-0192, Japan

The societies started many actions to achieve the sustainable development according to the Sustainable Development Goals (SDGs) in the world. Recently, the word of SDGs is come to hear so often in our daily life. However, it seems to be slightly difficult to recognize what SDGs is and targets for each goal, especially for young generation. Gender equality which is one of the SDGs is gathering attention as an important social problem. Therefore, it is of importance to keep consciousness and understand the SDGs actions for young generation. In this study, the survey was conducted to investigate the awareness and practice of the SDGs initiatives for the young women who were studying in the fashion field. Additional aim of this survey was to understand the current situation of consumers for conscious reduction of the wasteful consumption and disposal of clothes. From the results of the survey, many of the young women agreed with the importance of the SDGs initiatives, but the ratio of the women having interest in them was reduced to about half, and the degree of recognition was about the same. Many of them were very interested in the eco-friendly lifestyle, and in activities to improve the women's rights. It is importance to make young women understand the relations between their interests with the SDGs initiatives to raise awareness and understanding of the SDGs initiatives. **J. Fiber Sci. Technol., 80(6), 146-154 (2024) doi 10.2115/fiberst.2024-0016** **©2024 The Society of Fiber Science and Technology, Japan**

会告
2024

The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 80, No. 6 (Jun 2024)

開催年月日	講演会・討論会等開催名(開催地)	掲載頁
2024. 6. 21(金)	**第 64 回 先端繊維素材研究委員会(AFMc)公開ミニシンポジウム 空と宇宙で活躍する繊維材料**	A8
6. 29(土)	**第 61 回化学関連支部合同九州大会(北九州市・北九州国際会議場)**	A7
7. 5(金)	第 42 回高分子表面研究会 基礎講座(東京都・東京理科大学(ハイブリッド開催))	A14
7. 12(金)	第 294 回ゴム技術シンポジウム(東京都・東部ビル 5 階会議室(ハイブリッド開催))	A14
7. 18(木) 19(金)	**2024 年繊維基礎講座「(仮)700 分で学ぶ繊維の基礎と先端研究」(オンライン開催(Zoom システム利用))**	A9
8. 8(木) 9(金)	第 58 回夏期講座(東京都・ブリヂストン奥多摩園)	A14
8. 29(木) 30(金)	第 38 回日本キチン・キトサン学会大会(京都市・京都府立大学)	A14
9. 12(木) ～14(土)	第 26 回日本感性工学会大会(東京都・タワーホール船堀)	A14
9. 14(土) 15(日)	**令和 6 年度化学系学協会東北大会(秋田県・秋田大学手形キャンパス)**	A6
10. 8(火) ～10(木)	第 10 回材料 WEEK(京都市・京都テルサ)	A14
10. 14(月) ～18(金)	第 4 回 J-PARC 国際シンポジウム「J-PARC の将来と J-PARC が創る未来」(J-PARC2024)(水戸市・水戸市民会館)	A14
10. 17(木) 18(金)	第 72 回レオロジー討論会講演(山形市・山形テルサ)	A14
11. 25(月) ～28(木)	**繊維学会創立 80 周年記念事業 International Symposium on Fiber Science and Technology 2024(ISF2024) 繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム(京都市・京都テルサ)**	A3
11. 28(木) 29(金)	**2024 年度繊維学会秋季研究発表会(京都市・京都テルサ)**	A3
	繊維学会第 707・708 回理事会議事録	A10
	繊維学会誌広告掲載募集要領・広告掲載申込書	2010 年 6 月号
	繊維学会定款(2012 年 4 月 1 日改訂)	2012 年 3 月号
	Individual Membership Application Form	2012 年12月号
	繊維学会誌報文投稿規定(2012 年 1 月 1 日改訂)	2014 年 1 月号
	訂正・変更届用紙	2014 年 3 月号

「繊維学会誌」編集委員

編集委員長 内田 哲也(岡山大)
編集副委員長 髪谷 要(和洋女子大院) 出口 潤子(旭化成㈱)
編集委員 大島 直久((一社)日本染色協会) 鹿野 秀和(東レ㈱) 上高原 浩(京大) 岸田 恭雄(ユニチカトレーディング㈱)
金 慶孝(信州大) 榊原 圭太(産総研) 澤田 和也(大阪成蹊短期大) 朱 春紅(信州大)
杉浦 和明(京都市産業技術研究所) 髙﨑 緑(横浜国立大院) 谷中 輝之(東洋紡㈱) 長嶋 直子(金城学院大)
田村 篤男(帝人㈱) 松野 寿生(山形大) 西田 幸次(京都大院) 檜垣 勇次(大分大)
廣垣 和正(福井大)
顧問 浦川 宏(京都工芸繊維大院) 土田 亮(岐阜大学名誉) 村瀬 浩貴(共立女子大) 小寺 芳伸(元 三菱ケミカル㈱)

2024 年度（令和 6 年度）繊維学会行事予定

行　事　名	開　催　日	開　催　場　所
繊維学会 創立 80 周年記念事業 *International Symposium on Fiber Science and Technology 2024 (ISF2024)*	2024 年 11 月 25 日(月)－ 28 日(木)	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
2024 年度 繊維学会秋季研究発表会	2024 年 11 月 28 日(木)－ 29 日(金) ※ 11/28 (木) ISF2024 と秋季研究発表会 合同ポスター発表 ※ 11/29 (金) 秋季研究発表会 口頭発表	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ

繊維学会の正会員様へのお知らせ

繊維学会正会員様の会員資格は毎年自動継続となり、別段のお手続きは必要ございません。
異動、退職、卒業などによりご登録情報に変更がございましたら、お早めにご連絡を頂きますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
＊学会誌の送付先の変更
　　住所変更(新旧の住所)、担当者変更(新旧の担当者名)、時期など
＊退会をご希望の際は、メールまたは FAX に必要事項
　　会員番号、氏名、退会希望日、連絡先などを記入し、下記までご連絡をお願いします。
問合せ先　一般社団法人繊維学会　事務局
　　〒141-0021　東京都品川区上大崎 3-3-9-208
　　TEL：03-3441-5627　FAX：03-3441-3260　E-mail：office@fiber.or.jp

繊維学会論文誌(JFST)
Journal of Fiber Science and Technology

- JFST は、繊維科学を中心とした幅広い専門分野をカバーする査読付きの英文・和文のハイブリッドジャーナルです。
- JFST は、Web of Science Core Collection をはじめ Journal Citation Report , Scopus 等の各種データベースに収録され、永く Impact Factor を維持し、国際的な評価を得ている日本の繊維科学をリードする学術論文誌です。
- JFST は、読者へのサーキュレーションの良いオープンアクセス誌としていますが、掲載内容の二次利用については、著作権保護の立場から一般社団法人　著作権協会に著作権管理および利用許諾業務を委託しています。

複写等をご希望される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、公益法人日本複製権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。
〒107-0052　東京都港区赤坂 9-6-41　乃木坂ビル
　　(一社)学術著作権協会
TEL：03-3475-5618　FAX：03-3475-5619
E-mail：info@jaacc.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。
アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone：1-978-750-8400　FAX：1-978-646-8600

繊維学会創立 80 周年記念事業
International Symposium on Fiber Science and Technology 2024（*ISF2024*）
繊維の科学と技術に関する国際シンポジウム 2024

一般社団法人繊維学会では、創立 80 周年記念事業として、繊維の科学と技術に関わる研究者・専門家を世界中から幅広く集めて、国際会議を開催します。繊維科学・技術分野において、繊維やテキスタイルそのものの基礎・応用研究のみならず、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、AI/ICT テクノロジーや人文社会科学との境界領域も益々重要となってきています。繊維の科学と技術に関する研究開発が急速に発展している中、本国際会議は、当該分野に係る世界中の人々が集い、最新の研究成果を発表し、情報の交換を行う場を提供します。特に、日本の中で繊維産業の規模は縮小傾向にあるとはいえ、当該分野の日本の高い技術力、研究開発力は世界が認めるところであり、本国際会議は世界から大きな注目を集めるものと期待されます。現在の日本の立ち位置を確認し、また、世界に向けて日本の実力を発信するため意義深いものと考えます。加えて、歴史観光や学術文化で世界からも注目の集まる京都の地で開催することは、特に海外からの参加者にとって魅力あるものに違いありません。本国際会議を契機として、産官学界で「総合知」の観点も取り入れながら、繊維をキーワードとしてグローバル課題解決を目指す議論や協働が活性化することを期待します。

会　期：2024 年 11 月 25 日～11 月 29 日
　　会期は秋季研究発表会（以下「秋研」という。）を含む
　　※ 11 月 28 日は、秋季研究発表会との合同ポスター発表会
　　※ 11 月 29 日は、秋季研究発表会の口頭発表

会　場：京都テルサ（京都市南区東九条下殿田町 70）
主　催：一般社団法人繊維学会
協　力：（協賛）日本化学繊維協会
　　（協賛）日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会

組　織：組織委員長　大田康雄（繊維学会会長）
　　実行委員長　櫻井伸一（京都工芸繊維大学）
　　秋季研究発表会実行委員長　上髙原　浩（京都大学）

スケジュール

11 月 25 日㈪　ウェルカムパーティー
11 月 26 日㈫　オープニングセレモニー、基調講演、招待講演、一般発表
11 月 27 日㈬　招待講演、特別セッション、一般発表
11 月 28 日㈭　午前　特別セッション @テルサホール
　　午後　秋研合同ポスター発表 @東館 2 F ＆ 3 F
　　夕方　クロージングセレモニー、日本舞踊、秋研合同バンケット @テルサホール
11 月 29 日㈮　秋研日本語口頭発表

一般セッション

G1. Fibers and Polymer Materials（including Membranes）
　　Polymer Synthesis, Creation, Structure/Properties, Functions, and High-performance
G2. Soft Matter
　　Liquid Crystals, Colloids, Gels, Elastomers, Blends, and Block Copolymers

G3. Biomedical Materials
Biomolecules, Biomaterials, and Medical Polymers
G4. Molding, Processing, and Spinning
Fibers/Films, Nonwoven Fabrics, Porous Materials, and Composites
G5. Dyeing and Finishing(including Coating and Laminating)
Dye, Dyeing, Functional Processing, and Cleaning
G6. Textiles and Apparel
Fashion, Comfort Science, Simulation, Modelling, Textile Testing, and Clothing Psychology
G7. Textile Machinery
Fiber Assembly, Fabrication, and Commercialization
G8. Industrial Textiles and Smart Textiles
Technical Textiles and Nonwoven Fabric
G9. Management, Marketing, and Education
Textile Economy, Ecology, Supply Chain, Apparel Industry, DX, Education, and Training

特別セッション

S1. Tradition and Culture of Fibers and Textiles(招待講演のみ)
S2. Sustainable and Environmentally-Benign Fiber Science and Technology
Natural Fibers, Bio-based Polymers, Environment, Sustainability, Circular Economy, and SDGs
S3. International Collaboration(招待講演のみ)
Future Vision of Fiber Science

※詳細については公式ホームページ https://www.primatours.co.jp/isf2024/ をご覧ください。

重要な締切日

2024 年 8 月 31 日　参加登録(早期割引)締切
2024 年 9 月 14 日　Abstract 提出締切(先に参加登録をお済ませください)
参加登録(発表者)締切

使用言語：英語

発表申込および Abstract 提出：
以下の公式ホームページ上から発表申込・提出することができます。
https://www.primatours.co.jp/isf2024/
すでに受付を開始しております。

問合先：ご不明の点は、ISF2024 事務局へお問い合わせください。
ISF2024 事務局
E-mail: isf2024@fiber.or.jp
担当：丸林 弘典(ISF2024 副実行委員長、京都工芸繊維大学)
山本 恵美(繊維学会事務局)
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208
一般社団法人 繊維学会内

[小島基金]リカレント教育支援制度について

小島盛男様からのご寄付を貴重な財源として、“令和 10 年プロジェクト”を推進しています。

プロジェクトの一環として、リカレント教育支援制度を設けており、博士号取得を目的として大学院に在学中の、企業もしくは公設試験研究機関に所属する研究者の方を対象に、下記の通り奨学金を給付します。

記

支援対象：下記のすべてを満たす方のうち、若干名

①繊維学会の正会員であること

②企業もしくは公設試験研究機関に所属していること

③博士号取得を目的として大学院に在学中であること

支援方法：奨学金として 40 万円を支給し(1 人 1 回限り)、JFST への投稿を 3 年間無料とします。

選考方法：繊維学会運営委員会にて、研究内容が繊維学会の対象分野に合致するか否か等を審議し、採否を決定します。

応募方法：2024 年 7 月 12 日までに、①対象者氏名、②所属企業もしくは機関名、③博士号取得予定の大学院名、④指導教員、⑤研究内容(A4・1 枚程度)を、応募先までメールにて連絡ください。

被支援者の義務：被支援者は、以下の義務を履行する必要があります。

①繊維学会主催行事への参加(種類や回数は問わない)

②研究成果の JFST への投稿(1 報以上)

その他：採用が決定し奨学金をお支払いする前に、在学証明書を提出いただきます。また、特別の事情がない限り、採用者の氏名を学会誌に掲載いたします。奨学金は原則、個人名義の銀行口座への振込とします。

応募／連絡先：繊維学会事務局(mail:office @ fiber.or.jp)

令和６年度化学系学協会東北大会

主　催：日本化学会東北支部

共　催：高分子学会東北支部、日本分析化学会東北支部、化学工学会東北支部、有機合成化学協会東北支部、電気化学会東北支部、日本材料学会東北支部、繊維学会東北北海道支部、無機マテリアル学会北部支部、分子科学会東北地区、日本セラミックス協会東北北海道支部、日本接着学会東北・北海道支部、高等学校文化連盟全国自然科学専門部、秋田大学

会　期：2024 年 9 月 14 日㈯～15 日㈰

会　場：対面開催：秋田大学手形キャンパス（〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1）
［アクセス］https://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/

交　通：1. JR 秋田駅からバス約 6 分（西口 12 番のりば）「手形山経由大学病院線」乗車「秋田大学前」下車
2. JR 秋田駅からタクシー約 5 分
3. 秋田駅東口より徒歩約 15 分（約 1.3 km）
※学内に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

講　演：1. 一般講演：ポスター発表
2. 特別講演：日本化学会東北支部の推薦によるテーマで 3 件
3. 招待講演：各学協会からの推薦による現在脚光を浴びているテーマ
4. 依頼講演：各学協会からの推薦による研究者講演
5. 特別企画：化学教育研究協議会東北大会、有機化学コロキウム、物理化学コロキウム、高分子コロキウム
※口頭発表は講演者持参のコンピュータによりプロジェクタを利用

発表申込締切：7 月 19 日㈮

発表予稿原稿締切：7 月 29 日㈪

事前参加登録申込締切：8 月 16 日㈮

発表申込方法：日本化学会東北支部ホームページ（https://tohoku.chemistry.or.jp/）にて案内

参加登録費：［事前登録］一般：4,000 円、小・中・高教員：無料、大学院生：2,000 円、
高校生、高専生、学部生：無料（いずれも予稿集代を含む）
［当日登録］一般：5,000 円、小・中・高教員：無料、大学院生：3,000 円、
高校生、高専生、学部生：無料（いずれも予稿集代を含む）

懇親会：9 月 14 日㈯ 18 時より、ANA クラウンプラザホテル秋田にて
会　費：事前登録：一般 7,000 円、学生 4,000 円
当日登録：一般 8,000 円、学生 5,000 円

事前参加登録申込方法：日本化学会東北支部ホームページ（https://tohoku.chemistry.or.jp/）にて案内
（4 月上旬頃公開予定）

問合せ：〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学理学部化学科内
公益社団法人 日本化学会東北支部事務局（担当：千葉依巳）
TEL・FAX：（022）-224-3883　E-mail：nikka.tohoku@chemistry.or.jp
HP：https://tohoku.chemistry.or.jp/

変更などの詳細は、日本化学会東北支部ホームページ（http://tohoku.chemistry.or.jp/）にてご確認ください。

第 61 回化学関連支部合同九州大会

主催・共催：高分子学会九州支部ほか 7 化学関連支部
会　期：2024 年 6 月 29 日㈯ 9 時～17 時（予定）
会　場：北九州国際会議場（北九州市小倉北区浅野 3-9-30）［交通］JR 小倉駅より徒歩 5 分
発表形式：一般・学生発表はポスター発表のみ。ほか依頼講演（8 件、各支部推薦）
参加費・発表登録費：聴講のみの参加費は無料。
発表登録費は、ポスター発表 1 件につき 3,000 円（予稿集 1 冊含む。当日受付にて、お支払いください）。
聴講のみの参加者で予稿集をご希望の方は受付にてお求めください（1 冊：1,500 円）。

授賞式：各支部によるポスター賞審査終了後、各支部毎に開催します。
なお、懇親会の開催予定はありません。

問合先：〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744
第 61 回化学関連支部合同九州大会実行委員会事務局
（実行委員長：門川淳一（鹿児島大学）、代表世話人：春藤淳臣（九州大学））
E-mail：godo61sec@gmail.com　TEL：092-802-2880

なお新型コロナウイルスの感染状況により、プログラムを変更する場合があります。
さらに、オンラインにて開催する場合があります。

依頼講演［順不同］

依頼講演 高分子学会九州支部推薦
檜垣 勇次（大分大学）
「両親水性ブロック共重合体のミクロ相分離による水相分画」

依頼講演 日本分析化学会九州支部推薦
中島 雄太（熊本大学）
「医療・創薬に活かすナノマイクロツール開発」

依頼講演 電気化学会九州支部推薦
吉本 惣一郎（熊本大学）
「固液界面における分子集合とその電気化学的な制御」

依頼講演 有機合成化学協会九州山口支部推薦
白川 誠司（長崎大学）
「キラル二官能性有機カルコゲン触媒の開発に至る経緯と展開」

依頼講演 日本化学会九州支部推薦
藤野 茂（九州大学）
「微細かつ複雑形状を有する機能性透明シリカガラスの開発 ―次世代を担う 3D 光造形技術の役割と未来像―」

依頼講演 化学工学会九州支部推薦
田巻 孝敬（鹿児島大学）
「CO_2 電解による高選択エチレン生成へ向けた電極反応場設計」

依頼講演 日本農芸化学会西日本支部推薦
沼田 倫征（九州大学）
「CRISPR-Cas 系の生物学」

依頼講演 繊維学会西部支部推薦
桑原 穣（熊本大学）
「超分子ナノファイバーを利用した機能基のキラル配向組織化と機能発現」

第 64 回 先端繊維素材研究委員会（AFMc）公開ミニシンポジウム
空と宇宙で活躍する繊維材料

主　催：（一社）繊維学会・先端繊維素材研究委員会（AFMc）
日　時：令和 6 年 6 月 21 日㈮ 13：00〜17：20
会　場：ハイブリッド開催
　　オンサイト：京都大学宇治キャンパス・化学研究所 碧水舎（京都府宇治市五ヶ庄）
　　JR 奈良線または京阪宇治線、黄檗駅から徒歩 5〜10 分
　　オンライン：Zoom 配信（申し込み頂いた方に、接続方法をお知らせします）

いまや繊維も航空・宇宙科学には欠かせないものとなっています。また、2024 年は日本にとって宇宙開発元年ともいわれておりビジネスとしても本格的な盛り上がりを見せようとしています。今回は、航空機や人工衛星等に用いられる材料に求められる特性と、それを実現する繊維材料について学ぶことができるミニシンポジウムを企画いたしました。繊維素材技術者に限らず広い分野のご専門家からも、奮ってご参加いただきたくよろしくお願い申し上げます。

プログラム

【特別講演】

13:00〜13:50　「単層カーボンナノチューブの作製／分離精製の現状と課題」
京都産業大学 理学部 物理科学科 鈴木 信三

13:50〜14:40　「炭素繊維で空と宇宙の未来を築く」
岐阜大学 工学部 化学・生命工学科 入澤 寿平

14:40〜14:50　休憩

14:50〜15:40　「人工衛星プロジェクト〜モノづくりは人づくり〜」
宇宙開発協同組合 SOHLA 棚橋 秀行

【一般講演】

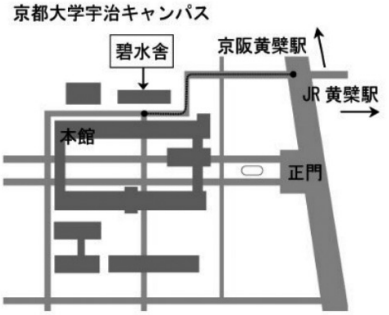
15:40〜16:10　「等方性ピッチ系炭素繊維の特徴と用途展開」
大阪ガスケミカル株式会社 竹内 敬一

16:10〜16:20　休憩

16:20〜16:50　「PBO 繊維・高強度ポリエチレン繊維の宇宙・航空用途展開」
東洋紡エムシー株式会社 福島 靖憲

16:50〜17:20　「炭素繊維強化ポリアミド樹脂 UD テープの開発」
旭化成株式会社 森 勇樹

定　員：約 50 名（先着順）
参加費：先端繊維素材研究委員会は無料（法人は 2 名まで無料、3 名以降 5000 円）、会員外（大学繊維学会員）6000 円、会員外（企業繊維学会員）7000 円、会員外（非繊維学会員）8000 円、学生 無料
申込方法：お名前・ご所属・ご連絡先・参加方法（オンサイト／オンライン）の希望をご記入の上、下記申込先まで E メールでお申込ください。オンラインでご参加の場合は前日に Zoom のご招待 URL をご案内いたします。
申込先：〒611-0011 京都府宇治市五ケ庄
京都大学化学研究所 高分子物質科学領域内 AFMc 係
Tel：0774-38-3142　FAX：0774-38-3146（AFMc 事務局直通）
Email：zaibutu2@scl.kyoto-u.ac.jp



2024 年繊維基礎講座
「(仮)700 分で学ぶ繊維の基礎と先端研究」

繊維学会では、新たに繊維に携わる社会人や学生を対象に「繊維基礎講座」を毎年開催しています。2024 年繊維基礎講座では、繊維をキーワードとして活躍されている研究者・専門家に繊維の基礎的な知識から、今日の繊維産業と繊維科学研究の最新動向をご紹介いただきます。

繊維科学研究、技術の基礎から最新動向までを学ぶとともに、繊維を中心とした科学技術と産業の将来を考える機会としていただければ幸いです。

主　催：一般社団法人繊維学会
日　程：2024 年 7 月 18 日㈭～19 日㈮
会　場：オンライン開催(Zoom システム利用)定員：300 名

【1 日目】 9:30 諸注意等
9:40 はじめに(企画委員会)
10:00 1. 合成繊維(石油原料からバイオマス原料へ)　(信州大)宝田　亘
11:05 2. 紡糸・延伸(繊維構造形成と繊維物性)　(信州大)大越　豊
12:05 ～ 昼休み
13:10 3. 天然繊維(タンパク質性繊維と核酸性繊維)　(信州大)矢澤　健二郎
14:15 4. 染色(繊維の染色性向上と機能性付与)　(日本女子大)榎本　一郎
15:20 5. 洗浄(分光法による洗浄評価法と洗浄配合剤の洗浄機構)　(東京家政大)葛原　亜起夫
16:20 パネルディスカッション※
17:00 1 日目終了
【2 日目】 9:40 6. 高機能繊維(強誘電エレクトレット超極細繊維膜)　(京都工繊大)石井　佑弥
10:45 7. スマートテキスタイル((仮題)着心地の科学に基づいた快適衣服の設計)　(横国大)薩本　弥生
11:45 ～ 昼休み
13:00 8. 電界紡糸(ナノファイバーの配向高集積化、芯鞘構造形成から大量紡糸装置へ)(福井大)藤田　聡
14:05 9. 炭素繊維複合材料(‘脱炭素’社会に‘炭素’繊維で貢献する)　(岐阜大)入澤　寿平
15:10 10. 放射光を利用した繊維・高分子構造解析～ナノテラスの利用に向けて　(山形大)松葉　豪
16:10 パネルディスカッション※
16:50 おわりに
17:00 講座終了

※各日の最後に、講演者を含む参加者の皆さんの交流の場としてパネルディスカッションを予定。
○参加者で希望される方には期間限定で見逃し配信を行う予定です。
(諸般の事情により、ご覧いただけない講演がある場合がございます。)

参加登録期間：5 月 7 日㈫～7 月 5 日㈮
参加登録費(税込)：企業会員(維持・賛助会員)24,000 円、企業非会員 29,000 円、大学・官公庁会員 17,000 円、大学・官公庁非会員 22,000 円、大学・官公庁団体(15 名まで)25,000 円、企業団体(維持・賛助会員のみ、5 名以内)48,000 円、学生会員　3,000 円、学生非会員 5,000 円

*会員・非会員に関わらず、広く繊維学会を知っていただく試みとして参加登録費を設定しています。非会員の方におかれましては、この機会にぜひ学会への入会をご検討ください。https://www.fiber.or.jp/jpn/join/join.htm
*大学・官公庁団体でのお申込みには、グループ内に最低 1 名の繊維学会員を含む必要があります。
*団体でのお申込の際は、個別にウェブの参加登録をお願いいたします。参加登録ページの振込方法欄は、団体の場合はチェック不要です。全員の登録手続きがお済みになりましたら、グループ代表者は事務局へご連絡ください。ご請求書をお送りいたします。
*参加登録ページでは、会員区分で会員を選択し、会員番号枠内に「団体申込」と記入してください。

参加費振込：【振込口座】三井住友銀行 目黒支店　普通口座　0922240　(加入者名)一般社団法人繊維学会
*振込手数料は各自でご負担ください。
*参加登録費は、7 月 7 日㈰までにご入金くださいますようお願いいたします。入金確認ができた方へのみ講座開催 1 週間前を目処に「参加証」(会議 URL 記載)をお送りいたします。
*入金の際は、振込人名に「参加登録番号」及び、「お名前」を入力ください。入金者が不明な場合参加証の送付が遅れる場合がございます。締日の関係から期日までにご入金が難しい場合は、事務局へご相談ください。

お問い合わせ：〒141-0021　東京都品川区上大崎 3-3-9-208　(一社)繊維学会　E-mail: office@fiber.or.jp

2024 年 1 月 20 日
13:00～15:10

繊維学会 第 707 回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事　大田康雄、辻井敬亘、奥林里子、武野明義、鑓谷要、花田朋美、濱田仁美、木村睦、増田正人、大松沢明宏、逸見龍哉、松葉豪、末信一朗、清水宏泰、森下美由紀、櫻井伸一、内田哲也、
欠席理事　村瀬浩貴、吉村利夫、竹中幹人、齋藤継之、道信剛志、神山統光、出口潤子、山崎睦生、竹本慎一、中澤靖元、佐瀬正和、吉松丈博、香出健司
監　　事　土田亮、小原奈津子
欠席監事　金谷利治

（敬称略）

会　　場　対面開催（京都アカデミアフォーラム in 丸の内）

大田会長より能登半島地震についてのお見舞いが伝えられ、末北陸支部長から現在の現状があった。また、今回よりオブザーバー参加として東洋紡エムシー株式会社の増森忠雄氏が参加することが伝えられた。大田会長の司会で、理事 30 名のうち、出席理事 17 名、監事 2 名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、対面開催にて行い、理事の意思表明は発言や挙手にて決議した。続けて、大田会長が議長となり議事に入った。

2. 審議事項

1) 会員入退会の件・・・＜資料 1＞
事務局より 1 月 17 日（水）現在の会員数について別紙の通り報告された。入退会について異議なく承認された。承認された内容は、正会員数 1020 名（正会員 947 名、名誉会員 15 名、永年会員 58 名）、学生会員 452 名、維持会員 12 団体（増減なし）、賛助会員 89 団体である。学生会員数の増加は、年次大会での発表や参加に伴うものであることが伝えられた。正会員の退会者の多くは高齢化や退職、ご逝去によるものであり会員減少についての懸念が伝えられた。理事へは、今後の会員増強に関する協力が求められた。

2) 創立 80 周年記念事業の件について・・・＜資料 2＞
現地実行委員長である櫻井関西支部長より ISF2024 の準備状況について説明がなされた。2 月初旬の発表・参加登録開始に向けてホームページの準備を進めていること、実行委員（約 50 名）への就任を依頼中であることなどが伝えられた。ISF2024 のスケジュール、秋季研究発表会と一部合同開催などの説明に加え、別紙の通り ISF2024 の予算案について説明がなされた。また、本会議の業務委託先としてプリマツアーズ株式会社、組織委員長にとして大田会長、組織委員として現理事・監事への就任を依頼することが提議された。
【審議結果】
提議について、全て異議なく承認された。また、6 月の総会以降、新理事会メンバーへも組織委員就任を依頼することが提案され、異議なく承認された。また、木村国際連携委員長より ATC-17（台湾）の開催時期が近いことから、台湾側との連携についても提案がなされ、理事会から前向きな検討について同意が得られた。繊維学会事務局から ATC-17 事務局へ ISF2024 の情報共有を行うなど、本件について引き続き、参加者募集のための各所と連携していくことで承認された。

3) 将来構想委員会 SFSTJ アクションプラン（案）について・・・＜資料机上配布＞
将来構想委員会提案の SFSTJ アクションプラン（案）について奥林運営委員長より説明がなされた。中間報告として、委員 17 名のうち 15 名から SFSTJ アクションプラン（案）を承認する回答が得られていることが資料とともに報告された。繊維系三学会合併の位置付けについての意見も共有された。三学会合併に関して前向きな意見が多数あった一方、「今回の委員会の議論では合併を前提としていないため、現時点では切り離しておくべき」や、「合併と本件は別なので再検討が進んで行った中でもう一度議論するべき」、「合併ありきはよくない」などの意見もあった。また、アクションプランを実現させるため、時間軸を示して、具体的な計画が必要であるとの意見や財政・事務局の問題については合併前にクリアにすべきであること、予算計画やロードマップが会員へ提示されなかったことを指摘する意見も散見された。財政効率化の一方で、アクションプランを実現するためには、ある程度の事務局人員も必要であり、ある程度の費用が必要になるのではないかなどの意見も出された。
【審議結果】
SFSTJ アクションプラン（案）を中間報告とし、今後も継続してブラッシュアップしていくことで同意が得られた。まずは、ブラッシュアップしたアクションプランを今後の理事会で共有し承認いただくこととした。承認されたあかつきには、学会誌並びにホームページにおいて将来構想委員会からの提案として本アクションプランを会員へ提示することで異議なく承認された。

3. 報告事項

1) 三学会合併に関する検討再開の件について・・・＜資料 3 ＞
・「三学会統合に関する検討の再開についてのお知らせ」繊維学会誌 1 月号、HP 掲載
・上記お知らせに対して、会員 3 名からの寄せられた意見が共有（妙訳と原文）された。理事・会長の選出方法・決定方法について検討するべきであることや、高齢化が著しい二学会との合併で会員減少が加速することへの懸念、管理費が学会費収入を上回る団体との合併により財政的問題を抱え込む事への懸念、職員の処遇の正当性について等の意見があった。職員の処遇については、合併の有無に関わらず、社労士との面談を予定しており、今後の進捗については理事会等で報告を行うことが報告された。

2) 本年度収支見通しについて・・・＜資料 4 ＞
・資料に基づき、1 月初旬時点での会費収入状況、開催行事収支、学会誌印刷費、管理費等について説明がなされた。会費収入については、凡そ予算案通りである事、開催行事については、収支差が予算案を大きく下回る現状が報告された。ただ、学会員の人的交流や研究発表の成果としては大変素晴らしい結果が得られた事が伝えられた。学会誌印刷費用についても凡そ予算案通りである一方、学会誌広告収入の落込みが著しく、懸案事項であることも伝えられた。

3) 次年度事業（本部事業）、支部・研究委員会事業計画について
・11 月末に各支部、研究委員会委員長へ依頼済み、複数回答待ちがあるため、改めて依頼。回答が揃い次第、次年度予算の準備に入ることが伝えられた。

4) 本年度学会賞各賞応募結果と選考委員会開催について
・2024 年 2 月 17 日（土）13 時よりオンラインにて開催することが報告された。
・運営委員長を中心に 15 名の選考委員にて、学会賞 3 名、技術賞 1 件、奨励賞 1 名、功績賞 2 名に対する選考を行う。

5) 企画委員会 応用講座の開催報告
・2024 年 1 月 15 日（月）に京都大学化学研究所での対面とオンラインによるハイブリッドにて開催した。参加者は講師 4 名を含む 74 名が参加した。辻井企画委員長の提案によるパネルディスカッションが大変好評であった。多くの参加者から見逃し配信の希望が寄せられる素晴らしい講座であった。

6) 報告・連絡事項
① 東北・北海道支部（支部長　松葉理事）
・日中繊維シンポジウム（共催）報告
2023 年 12 月 11 日（月）～12 日（火）に北海道大学 学術交流会館 小講堂で開催し、37 名の参加者で開催された。
・北海道紙・パルプ技術懇談会（共催）
日時：2024 年 3 月 6 日（水）
会場：北海道大学農学部　総合研究棟 W109 多目的室
・繊維学会東北・北海道支部講演会
日時：2024 年 3 月開催予定
会場：未定
② 関東支部（支部長　中澤理事）
・関東支部講演会
日時：2024 年 3 月 18 日（月）
会場：東京農工大学　東小金井キャンパス
・2024 年度年次大会
展示、広告掲載への協力依頼、発表・参加募集は 12 月中旬を予定
2027 年度会場の提案のお願い
③ 東海支部（支部長　武野理事）
・第 36 回東海支部若手繊維研究会（共催）
2023 年 12 月 9 日（土）に岐阜大学、オンライン開催。参加者 35 名 19 件の発表があった。
④ 北陸支部（支部長　末理事）
・繊維学会北陸支部・日本繊維機械学会北陸支部・研究発表会
2023 年 12 月 11 日(月)に金沢大学 バイオマスグリーンイノベーションセンター ステップホール で開催し、32 名の参加者があった。
・先端技術研究会及び、福井大学繊維マテリアル研究センター研究発表会（共催）
2024 年 3 月開催予定、講演 2 件
・繊維学会報数学術普及講演会
日時：2024 年 4 月 18 日(木)午後
会場：福井県工業技術センター
仮題：「災害に備える繊維技術」講演 5 件程度、講師選定中
⑤ 関西支部（支部長　櫻井理事）
・秋研に対するコンベンション補助金申請手続き完了のご報告（金額 15 万円）
・関西支部長交代の予定（京都大学・上高原浩氏 内諾済）
・次年度秋季研究発表会実行委員長についても、上高原浩氏にて開催
日時：2024 年 11 月 28 日(木) ～29 日(金)
会場：京都テルサ
⑥ 西部支部（支部長　吉村理事）
・第 38 回繊維学会西部支部講演会・見学会
2023 年 12 月 22 日(金)に（株）大石膏盛堂、佐賀大学理工学部で開催
・第 8 回繊維学部西部支部若手講演会
日時：2024 年 3 月 18 日(月)14：00～
会場：九州大学　伊都キャンパス
⑦ 研究委員会関係について
・繊維基礎化学研究委員会　委員長交代の件
櫻井伸一委員長より、丸林弘典委員長へ交代

7) 各委員会からの報告等について
① 運営委員会
特になし
② 将来構想委員会
特になし
③ 国際連携委員会・・・＜資料机上配布＞
・繊維系三学会における国際連携戦略に対する日本繊維機械学会からの回答について木村委員長より報告がなされた。

8) 編集委員会の報告
① 繊維学会誌・・・内田編集委員長より順調に発行準備が進んでいること、寄稿に関する協力の御礼が伝えられた。
② 論文誌 JFST・・・鑓谷編集委員長より投稿数は例年並みで、順調に進んでいること、論文賞選考について手続き準備中であることが伝えられた。IF 向上に向けて、棚橋先生より継続してアドバイスをいただきたいこと、連携についても今後前向きに進めていきたい旨が伝えられた。

9) その他案件
① 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・＜資料 5 ＞
資料 5 と共に、今後の学会誌広告掲載について事務局、大田会長から協力を依頼した。
② 今後の理事会日程について

3月23日（土）、5月18日（土）オンライン開催
6月14日（金）臨時理事会、対面開催（東京・船堀）
7月27日（土）対面開催（東京または関西）
9月7日（土）、11月16日（土）オンライン開催
2025年1月18日（土）対面開催
3月22日（土）オンライン開催
2023年度監査委員会　2024年4月27日（土）対面開催・繊維学部事務局

③ 今後の学会行事担当について

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部

4. 監事コメント

【土田監事】

今までは10年ごとの国際会議を開催する度にその収支で赤字を補填して10年を乗り切るようなところがあった。ぜひ今回も、櫻井先生、辻井先生を中心に理事の皆様の協力のもと80周年記念国際会議の成功に向けて協力し進めてほしい。また、アクションプラン取りまとめに関する感謝が伝えられ、実行できるよう、案をより具体化することが求められた。合併検討再開に関する会員からの意見については「学会への攻撃」ではなく、「仲間からの進言」と受け止め、間違っているものは正し、改善するところは改善していけるよう努めてほしい。また、JFSTのIF向上の為、会員へ投稿を促すなども今後検討するべきである。

【小原監事】

将来構想委員会をはじめ真摯な、忌憚のない意見で運営されていると拝見した。これからも、継続して活発な意見交換で進めていっていただきたい。会員からの意見に関して真摯に受け止める必要がある一方、一部の会員からの意見をどの様に受け止めるべきか悩ましい部分もあるが、意見を言わない会員の中にも、今回の意見と同様に懸念を感じている人もいると思います。理事会に対する不信感を払拭できるような丁寧な説明や工夫、要らぬ誤解を招くことがないような進め方が求められていると感じましたので、そのように進めていただけるようお願いしたい。

以上

2024 年 3 月 23 日
13:00～15:30

繊維学会 第 708回 理事会議事録

1. 確認事項

出席理事　大田康雄、辻井敬亘、奥林里子、村瀬浩貴、鷺谷要、花田朋美、濱田仁美、
増田正人、大松沢明宏、松葉豪、末信一朗、清水宏泰、森下美由紀、中澤靖元、
櫻井伸一、吉村利夫、竹中幹人、齋藤継之、山崎睦生、竹本慎一、佐瀬正和、道信剛志、内田哲也、香出健司
欠席理事　木村睦、武野明義、神山統光、逸見龍哉、出口潤子、吉松丈博
監　　事　金谷利治、土田亮、小原奈津子　　（順不同、敬称略）
会　　場　オンライン開催

大田会長の司会で、理事30名のうち、出席理事24名、監事3名の出席を確認した。過半数の理事の出席があり、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、オンライン開催（執行部のみ対面）にて行い、理事の意思表明は発言や挙手にて決議した。続けて、大田会長が議長となり議事に入った。

2. 審議事項

1）会員入退会の件・・・＜資料1＞
3月19日（火）現在の会員数について別紙の通り報告された。正会員数991名（正会員919名、名誉会員15名、永年会員57名）、学生会員274名、維持会員12団体（増減なし）、賛助会員89団体。学生会員数の大幅な減少は、毎年年度末に学生会員に対して継続の意思確認を行ったことから、卒業などに伴う退会者が増加したことが説明された。同時に、年次大会での発表や参加に伴う学生の新規入会も多く見受けられたことも伝えられた。正会員の退会者の多くは高齢化、退職や離職、ご逝去によるものであった。同時に会員減少についての懸念も伝えられた。理事へ、今後の会員増強に関する協力が求められた。
【審議結果】
入退会報告について、異議なく承認された。

2）本年度学会賞各賞、論文賞候補者選考結果の承認について
2024年2月17日（土）に論文賞候補者選考委員会が開催されたこと、選考結果について奥林運営委員長より説明がなされた。また、受賞紹介記事が繊維学会誌5月号に掲載されること、年次大会２日目に6 月 13 日(木) 16:00～ 表彰式・受賞講演が予定されていることについても併せて伝えられた。
【審議結果】
提議について、各賞の受賞候補者について異議なく承認された。承認された2023年度各賞受賞者は下記の通り。
【学会賞】
道信 剛志　　東京工業大学
「クリックケミストリーを利用した機能性繊維・高分子材料の創製」
高﨑　緑　　京都工芸繊維大学
「レーザー加熱エレクトロスピニングによる極細繊維化と繊維構造制御に関する研究」
【技術賞】
東洋紡エムシー株式会社　谷中 輝之、金子 幸生、井上 拓勇、竹森 慶博
「三層構造型網状繊維構造体「ブレスエアー®」の開発」
【奨励賞】
朱　春紅　信州大学
「パーソナル熱管理に向けた高機能スマートテキスタイルの研究」
【功績賞】
木村　邦生　岡山大学
「重合相変化法を利用した剛直高分子の高次構造制御に関する研究と繊維学会活動への貢献」
菅沼　薫　武庫川女子大学
「繊維科学を背景とした美容・皮膚科学分野への展開と産業応用」

続けて、論文賞選考結果についても、別紙にて鷺谷編集委員長より提議された。
【審議結果】
提議された論文賞候補者について、異議なく承認された。承認された2023年度論文賞受賞者は下記の通り。
【論文賞】
古谷 勉　京都大学
「広い散乱ベクトルレンジと広いダイナミックレンジを備えた小角光散乱装置」
Maika Tamari　和洋女子大学
「Evaluation of Exothermicity of Moisture Absorption and Endothermicity of Moisture Release Characteristics of Clothing Materials Using "Two Connected Artificial Climate Chambers" and Contact and Non-Contact Temperature Sensors」
Keishi Naito　岐阜大学
「Acceleration of Crazing on Polyacrylonitrile Through Solid or Liquid Coating」

3）本年度本部収支見通しについて・・・＜資料２＞
事務局より資料2に基づき、本年度の収支見通し並びに次年度予算について説明がなされた。収支差として、期初予算に比べ△3,626,000円 の収入減であることが説明された。多くは、行事収支減、会費収入減、対面会議費用増、学会誌費用増が理由としてあげられた。これらの理由から、本年度、特定資産からの取崩補填 (案)について提議された。
・ 2,800,000万円 特定資産より取崩
（内訳：学会賞積立 1,500,000円、特定資産積立金1,300,000円）
・小島基金積立 学生会員費700,000円、職員退職積立引当金 300,000円予定
【収入】
年会費（17,950,000円）
内訳：正会員（991 名）*内訳:正 (958 名)、名誉 (15 名)、永年 50 年 (57 名)、維持会員（12 社）、賛助会員（89 社）、 学会誌購読（70箇所）
内訳：購読（2,290,000円）、JFST（2,390,000円）、広告（1,327,000円）、
行事収支（15,228,000円）内訳：内訳：年次（7,295,020円）、夏季（2,574,955円）、秋研（4,199,395円）、基礎（786,000円）、 応用（373,000円）
【支出】
一般管理費（17,583,000円） 内訳：人件費、退職引当、雑給与、
学会誌刊行費用（11,980,000円）、学会行事費支出（10,740,000円）、学会活動費（支部・研究委員会事業）（4,037,500円）、学会賞他（845,716円）出版事業費支出（110,000円）
【審議結果】
理事会以降3/31の年度末まで収支については精査することを前提に、特定資産取崩並びに次年度予算案について異議なく承認された

4）次年度事業計画承認について・・・＜資料３＞
(本部・支部・研究委員会)
事務局より次年度事業計画承認について説明がなされた。次年度は事業計画に則って学会を運営していくことについて提議された。
【審議結果】
一部支部長の交代に伴う氏名変更に加え、80周年記念行事に関する記載の統一など指摘があった。修正することを前提に仮承認された。改めて、５月の理事会に於いて修正後の次年度事業計画を再提議し、承認を得ることとした。

5）年次大会名称について
石井実行委員長より「2024年繊維学会年次大会（創立80　周年記念大会）」としたい旨、提案があり、大田会長より提議された。
【審議結果】
理事からは満場一致で「2024年繊維学会年次大会（創立80　周年記念大会）」とすることが承認された。

6）80 周年記念行事 ISF2024 の協賛金について・・・＜机上配布＞
辻井副会長より現在の準備状況、開催の趣旨などが改めて説明された。その上で、主に企業理事に向けて、公式スポンサー案についての説明と協力依頼がなされた。
スポンサー案として、展示（2 日間、会場内で展示／キャリアカフェ、参加1 名無料） 20 万円／ブース、広告（A 4 版） 8 万円／1 頁、5 万円／半頁、バナー（HP 掲載および会場内掲示） 5 万円、バック等のノベルティー協力で募集をすることが伝えられた。
企業理事、維持・賛助会員向けには、公式スポンサーパッケージとして公式ゴールドスポンサー 25 万円［会場内ブース、参加 2 名無料、広告 1 頁、バナー］、または［参加3 名無料、広告 1 頁、バナー］公式シルバースポンサー 15 万円［参加 1 名無料、広告1 頁、バナー］、公式ブロンズスポンサー 10 万円［広告1 頁、バナー］を優先的に用意することが伝えられ、設定金額等について提議された。
【審議結果】
企業理事へ金額設定等についての意見を求めた結果、上記提案について異議なく承認された。なお、自助努力も惜しまず、外部資金の獲得、特に国際会議基金やコンベンションへの補助金申請なども積極的に取り組んでいくことが伝えられた。その上で、今後、維持・賛助会員へ順次スポンサー募集の協力依頼を進めることとした。

3. 報告事項

1）80 周年記念事業の進捗について・・・＜資料4＞
・審議事項と併せて報告がなされたため、追加での説明は省略された。

2）三学会会長・副会長懇談会(第3回)開催について・・・＜資料5＞
・大田会長より前回の懇談会についての報告がなされた。議事録について、理事会資料として改めて共有された。
・木村理事から質問のあった、議事録を速やかに一般会員へHP等で公開する件については、懇談会の繊維学会だけでは決められないことが伝えられた。透明性の高い情報公開として検討すること、まずは、次回3/31の三学会会長・副会長懇談会(第４回)において、２学会と議論することが大田会長より伝えられた。
・今後の進捗については、引き続き理事会で随時報告を行うことも伝えられた。

3）企画委員会 基礎講座の準備状況について
「2024年 繊維学会基礎講座（仮）～ 700分で学ぶ繊維の基礎と先端研究 ～」
2024年7月18日（木）、19日（金）オンライン開催
2024年度の講師へ継続して依頼の準備中
新規講師として、松葉理事へ依頼、ご内諾済

4）報告・連絡事項
1　東北・北海道支部（支部長　松葉理事）
・2023年度繊維学会東北・北海道支部講演会報告
2024年 3 月21日（木）開催
・令和 6 年度化学系学協会東北大会
2024年 9 月14日（土）、15日（日）開催
秋田大学手形キャンパス
・東北・北海道支部長　山形大学　松葉豪(マツバゴウ)先生留任
2　関東支部（支部長　中澤理事）
・関東支部講演会
「組織工学からの食糧革命 ～細胞性食肉の動向と先端技術～」報告
2024年 3 月18 日（月）、参加者50名強
・2024年度年次大会　実行委員会からの継続協力要請
展示、広告掲載への協力依頼、発表・参加を募集中
・関東支部長　東京農工大学　中澤靖元 (ナカザワヤスモト)先生留任
3　東海支部（支部長　武野理事）
・東海支部幹事会
2024年3月28日（木）
・東海支部長　名古屋工業大学　永田謙二(ナガタケンジ)先生へ交代。
4　北陸支部（支部長　末理事）
・先端技術研究会（福井大学繊維マテリアル研究センター研究発表会 共催）報告
2024年3月7日（木）、参加者49名
「中性子小角散乱で眺める繊維のミクロ構造と水」茨城大学　小泉　智 先生
「イオン液体構造を有する高分子の基礎物性と応用展開」
福井大学学術研究院　松本　篤 先生
・ 令和 6 年度繊維学会北陸支部学術普及講演会 「災害に備える繊維技術」
日時：2024年4月18日（木）13:00-16:20
会場：福井県工業技術センター 講堂（〒910-0102 福井市川合鷲塚町 61）

講演：4 件
・支部役員については現在検討中。
5 関西支部（支部長　櫻井理事）
・繊維学会関西支部会議＆記念講演会
日時：2024年 3 月25日（月）
会場：京都工芸繊維大学　松ケ崎キャンパス 15 号館 N205 室
「繊維をマトリックスとして用いた複合材料」神戸大学　西野　孝 先生
・関西支部長交代予定。次期支部長については、支部会議にて決定の予定。
6 西部支部（支部長　吉村理事）
・第8回繊維学会西部支部若手講演会　報告
2024年3月18日(月)
・西部支部長　大分大学　氏家誠司 (ウジイエセイジ)先生へ交代。
7 研究委員会関係について
・特筆すべき報告はなし
8 日仏繊維協力WGについて・・・別紙資料画面共有＜資料 6 ＞
・大松沢理事から、日仏繊維協力覚書（MoC）見直しの方向性について説明がなされた。その上で、近日中にも日仏でのオンライン会議を開催したい旨、依頼があった。こちらも、今後の進捗については、随時理事会で報告の予定。

5）各委員会からの報告等について
1 運営委員会
今後、論文賞の賞金についてオンラインまたはメール審議にて委員会を開催予定。
4月中に支部長・研究委員長会議をオンラインにて開催予定。
2 将来構想委員会
前回理事会での意見を元に、アクションプラン更新中。
3 国際連携委員会
ISF2024のSpecial Session3について鋭意準備中。6名の国内外の招待講演者を準備中であることが伝えられた。

6）編集委員会の報告
1 繊維学会誌・・・内田編集委員長より順調に発行準備が進んでいること、寄稿に関する協力の御礼が伝えられた。
大田会長より、80周年特集号を「80周年記念企画」と連動させていただきたい旨、伝えられた了承された。
2 論文誌JFST・・・鹿谷編集委員長より順調に発行準備が進んでいること、協力の御礼が伝えられた。大田会長より、JFSTについても「80周年記念企画」と連動して、ISF2024 での発表者から特集号を準備いただけないか打診された。鹿谷理事からは、次期編集委員長である武野理事と相談の上、前向きに検討することが伝えられた。

7）その他案件
1 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・＜資料 7 ＞
資料 7 と共に、今後の学会誌広告掲載について大田会長、事務局から協力を依頼。
2 次年度役員(副会長、監事)候補者について
辻井副会長より現在打診中であることが伝えられた。5月の理事会での承認前に、メール審議も検討していることも併せて伝えられた。
3 信州大学 繊維学部 Fii「疾走するファイバー展」サイトが更新されたことについて、事務局より該当ページを画面共有し紹介された。
4 今後の理事会日程について
5月18日（土）オンライン開催
6月14日（金）臨時理事会　対面開催（東京）
7月27日（土）対面開催（東京または関西）
9月 7 日（土）オンライン開催
11月16日（土）オンライン開催
1月18日（土）対面開催（東京）
3月22日（土）オンライン開催
【監査委員会】
2024年4月27日（土）監査委員会　対面開催（東京）
5 今後の学会行事担当について
*2027年6月年次大会　別会場手配について検討する必要あり

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	中止	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部
秋季研究発表会	関西支部	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部

4. 監事コメント
【金谷監事】
執行部、理事の運営に感謝するとともに高く評価します。というのも、人口減少は学会だけで解決できる問題ではなく、会員数の減少は仕方のないこと。それに伴う会費収入の減少などで学会運営が厳しい状況に置かれている中でも、学会の活性化や、ISF　2024の開催、将来構想の議論など活発に活動していただいていることに感謝します。そうゆう状況の中で、より効率的でワクワクする活動や必要に応じての組織変更が進められることへも期待しています。本日の報告にもありました通り、三学会統合については丁寧に進めていただいており、風通し良く議論がなされていることも伝わってきました。最終的には、統合するかどうかは会員の総意を受けて結論されるわけですが、WG設置するなど、非常に良い方向に向かって議論が進められていると思います。

【土田監事】
多くの理事に参加いただいて理事会が開催できたことに感謝いたします。会員数が1,000名を切ってしまったことは非常残念ではございますが、これはある程度予測されていたことかと思う。今後できるだけ減少率が低くなるように学会の魅了を高め、理事含め、会員の皆様からの新規会員の勧誘が必要になるかと思う。日本化学会、高分子学会は終身会員なども設けており、退職後も何らかのご負担をお願いして会員をずっと継続していただく取り組みをしています。繊維学会としても学会誌の郵送からウェブでの閲覧などへ対応を変えて費用は抑えつつ、退職後にも学会への一定の興味を持ち続けていただけるような仕組みづくり、制度を今後検討していかれてはと思います。
【小原監事】
理事の皆様には大変ご尽力いただいていることが伝わる理事会であった。今年は10年ぶりのISF開催で関係される皆様には大変なこととは思いますが、ぜひ宜しくお願い致します。これを機に、学会を盛り上げていってくださることに期待しています。また、3学会の懇談会についても説明から具体的に様子が伝わってきて良かったと思います。今後も、懇談会の情報をこまめに共有していくことが望まれていると思いますので、対応を宜しくお願いします。加えて、日仏繊維WGでのサステナブルテキスタイル、ファッションに関しての説明がありましたが、検討を進める上でぜひ被服分野の大学教員へもお声がけいただき、日仏がお互いで新しい視点を入れていくような活動として進めていっていただきたいとおもいます。

以上

第 42 回高分子表面研究会 基礎講座

主　催：高分子学会 高分子表面研究会
日　時：2024 年 7 月 5 日㈮
会　場：東京理科大学（ハイブリッド開催）
プログラム：詳細は HP（https://member.spsj.or.jp/event/index.php?id=606）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：公益社団法人高分子学会 第 42 回高分子表面研究会基礎講座係
TEL：03-5540-3770　FAX：03-5540-3737

第 294 回ゴム技術シンポジウム

主　催：日本ゴム協会研究部会
水素機器用エラストマー材料研究分科会
日　時：2024 年 7 月 12 日㈮
会　場：東部ビル 5 階会議室（ハイブリッド開催）
プログラム：詳細は HP（https://www.srij.or.jp/newsite/schedule/）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：一般社団法人 日本ゴム協会
第 294 回ゴム技術シンポジウム係
TEL：03-3401-2957
E-mail：kenkyuubukai@srij.or.jp

第 58 回夏期講座

主　催：日本ゴム協会
日　時：2024 年 8 月 8 日㈭～9 日㈮
会　場：ブリヂストン奥多摩園
プログラム：詳細は HP（https://www.srij.or.jp/summer2024/index.html）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：一般社団法人日本ゴム協会 第 58 回夏期講座係
TEL：03-3401-2957
E-mail：summercourse@srij.or.jp

第 38 回日本キチン・キトサン学会大会

主　催：日本キチン・キトサン学会
日　時：2024 年 8 月 29 日㈭～30 日㈮
会　場：京都府立大学
プログラム：詳細は HP（http://jscc.kenkyuukai.jp/about/）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：一般社団法人 日本キチン・キトサン学会事務局
TEL：080-6153-4695　E-mail：office@jscc.jp

第 26 回日本感性工学会大会

主　催：日本感性工学会
日　時：2024 年 9 月 12 日㈭～14 日㈯
会　場：タワーホール船堀
プログラム：詳細は HP（https://www.jske.org/taikai/jske26/）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：日本感性工学会　事務局
TEL：03-3666-8000　E-mail：jske@jske.org

第 10 回材料 WEEK

主　催：日本材料学会
日　時：2024 年 10 月 8 日㈫～10 日㈭
会　場：京都テルサ
プログラム：詳細は HP（https://www.jsms.jp/kaikoku/10weekpro.htm）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：（公社）日本材料学会
Tel：075-761-5321　Fax：075-761-5325
E-mail：jimu@office.jsms.jp

第 4 回 J-PARC 国際シンポジウム「J-PARC の将来と J-PARC が創る未来」（J-PARC2024）

主　催：J-PARC センター（高エネルギー加速器研究機構、日本原子力研究開発機構）
日　時：2024 年 10 月 14 日㈪～18 日㈮
会　場：水戸市民会館
プログラム：詳細は HP（https://j-parc.jp/symposium/j-parc2024/）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：J-PARC 2024 Secretariat：
j-parc2024_contact@ml.j-parc.jp

第 72 回レオロジー討論会講演募集

主　催：日本レオロジー学会、日本バイオレオロジー学会
日　時：2024 年 10 月 17 日㈭～18 日㈮
会　場：山形テルサ
プログラム：詳細は HP（https://www.srj.or.jp/）をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：一般社団法人 日本レオロジー学会
E-mail：office@srj.or.jp　TEL：075-315-8687